

令和6年度 若桜町介護保険事業の特徴

若桜町の介護保険事業について、地域包括ケア「見える化」システム等により、全国・鳥取県・近隣町・類似団体と比較し、本町の特徴と要因分析を行いました。

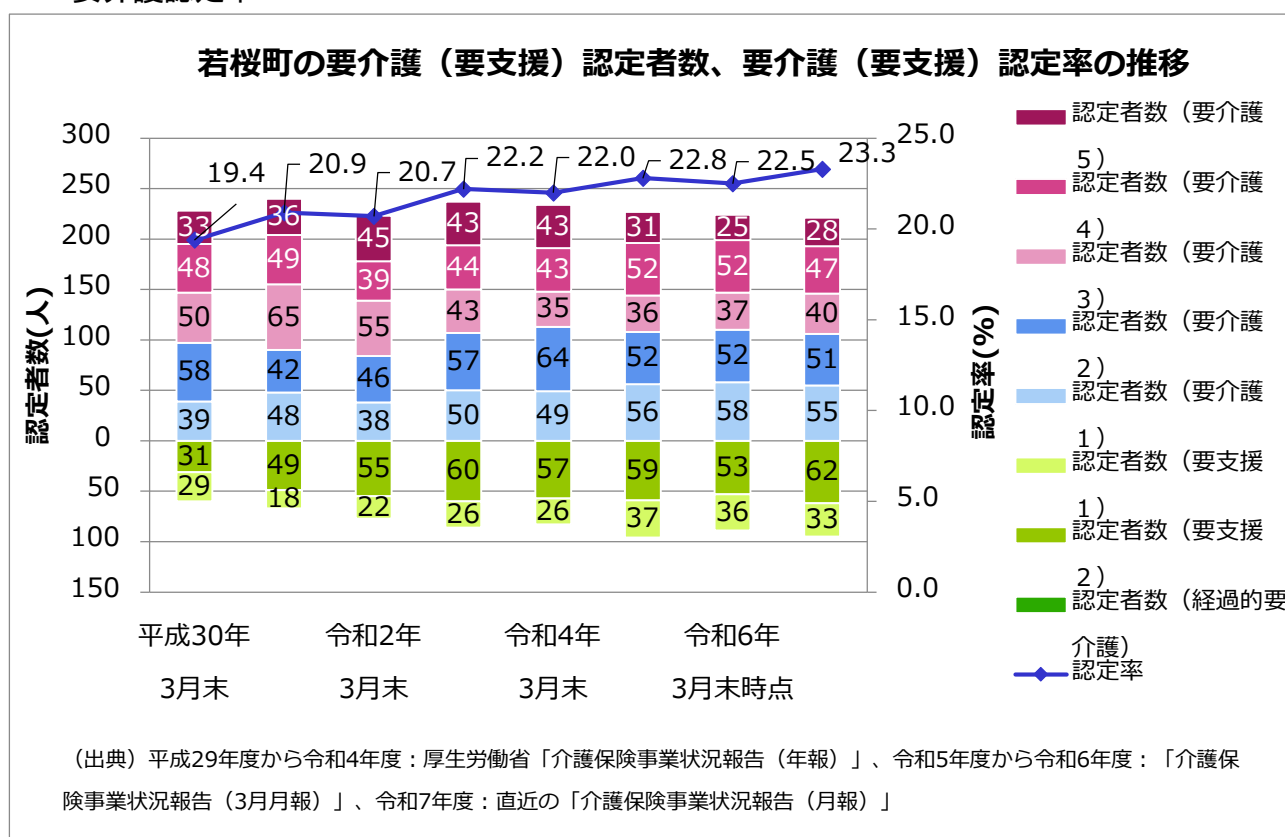
1 比較団体

近隣の八頭町、智頭町及び県内の類似団体(人口規模や高齢化率等が類似している日野町、江府町)と比較を行いました。

市町村名	2020年(令和2年)		2015年(平成27年)	
	人口(人)	高齢化率(%)	人口(人)	高齢化率(%)
若桜町	2,864	48.7	3,269	45.2
日野町	2,907	50.6	3,278	47.0
江府町	2,672	49.1	3,004	44.7
智頭町	6,427	43.6	7,153	38.9
八頭町	15,937	36.3	16,977	32.0

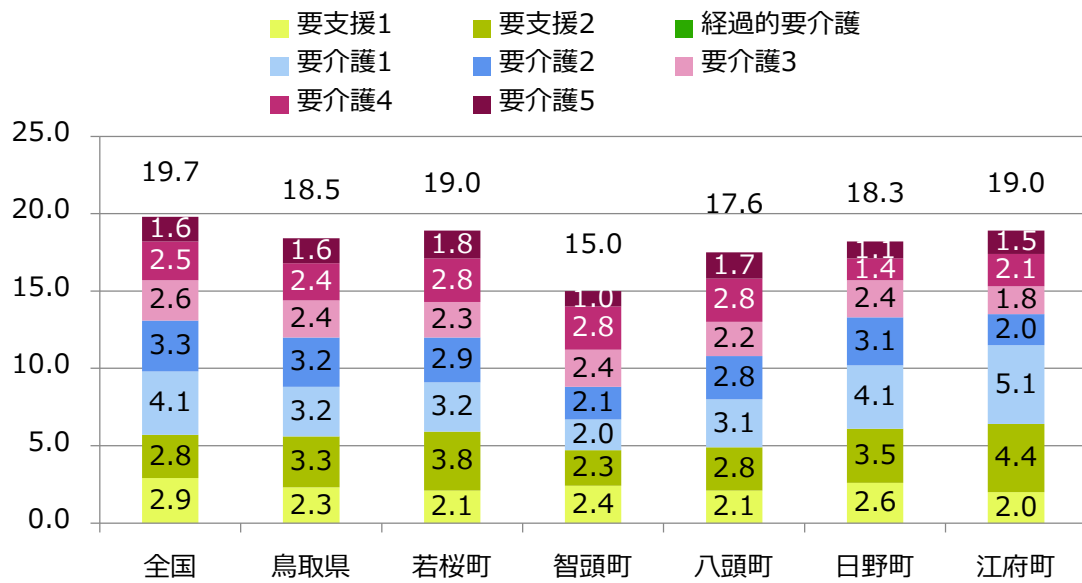
出典:国勢調査

2 要介護認定率



令和6年度末の認定率は23.3%で、令和5年度末より0.5%増加しています。要介護認定者数は令和2年度末以降緩やかな減少傾向となっている一方、要支援認定者数は増加傾向にあります。

調整済み認定率（要介護度別）（令和6年(2024年)）



（時点）令和6年(2024年)

（出典）厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和5,6年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）および総務省「住民基本台帳人口・世帯数」

※ 本指標は要介護度別の「調整済み認定率」を示すものです。「調整済み認定率」とは、第1号被保険者の性・年齢別の人口構成が、どの地域も同じになるよう調整することで地域間での比較がしやすいように調整した数値です。

若桜町の調整済み認定率は、全国平均を下回っていますが、鳥取県及び比較団体と比べると同程度かわずかに上回っています。また、要支援2・要介護5の認定率が、全国・県平均及び比較団体と比べて高くなっています。

3 受給者一人あたり給付費

受給者1人あたり給付月額（在宅及び居住系サービス）令和6年(2024年)

単位:円

	全国	鳥取県	若桜町	智頭町	八頭町	日野町	江府町
要支援1	1,938	2,036	2,179	3,388	1,668	2,114	2,865
要支援2	3,897	5,940	4,904	5,608	4,483	7,445	10,656
要介護1	27,572	25,331	27,190	20,038	26,618	46,824	36,865
要介護2	31,228	34,763	36,644	27,938	34,906	36,164	22,566
要介護3	27,997	29,596	20,325	30,412	27,713	22,396	19,624
要介護4	24,461	21,827	13,148	23,653	25,911	8,744	14,418
要介護5	17,665	14,607	5,315	11,642	12,851	9,360	4,527
一人当たり月額	134,759	134,099	109,705	122,679	134,151	133,047	111,520

（出典）厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和5,6年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）

若桜町の給付月額は、昨年度に引き続き、全体では全国及び県平均、比較団体より低くなっています。要支援1・要介護2が全国及び県平均を上回っているものの、その他の区分では下回っています。

4 第1号被保険者一人あたり給付費

調整済み第1号被保険者1人あたり給付月額 令和5年(2023年)

単位:円

	全国	鳥取県	若桜町	智頭町	八頭町	日野町	江府町
在宅サービス	10,755	11,366	9,018	8,655	11,711	10,968	10,715
施設及び居住系サービス	9,926	11,237	14,337	10,294	12,925	13,690	13,092

(出典)「介護保険総合データベース」及び総務省「住民基本台帳人口・世帯数」

※「調整済み第1号被保険者1人あたり給付月額」とは、第1号被保険者の性・年齢別の人口構成が、どの地域も同じになるよう調整することに加え、単位数に一律10円を乗じることによって地域間での比較がしやすいように調整した数値です。

若桜町の給付月額は、在宅サービスが全国・県平均及び比較団体(智頭町を除く)を下回っているものの、平成29年以降徐々に増加しています。要支援認定者数が増加傾向にあることから、在宅サービスの需要も増えつつあると思われます。施設及び居住系サービスは全国、県平均、比較団体を上回っており、重度者は施設等に入所する傾向にあることがうかがえます。

5 まとめ(若桜町の特徴と要因分析)

若桜町の第1号被保険者数は、平成30年以降緩やかな減少傾向となっているのに対し、要支援・要介護認定者数は緩やかな増加傾向となっています。また、人口減少・高齢化が進行しており、高齢夫婦世帯、高齢独居世帯の割合が高いことから、家族の介護力が低く、重度者は在宅生活の継続が難しいため、施設等に入所する傾向にあります。

若桜町の受給者一人当たり給付月額(在宅及び居住系サービス)は、ここ数年の傾向として、全体では全国及び県平均、比較団体より低くなっています。要支援1・2、要介護2が全国及び県平均を上回っているものの、要介護3~5で全国及び県平均を下回っています。また、性・年齢構成の影響を除外した給付データでは、全国及び県平均と比べ、施設及び居住系サービスは高く、在宅サービスは低い値となっています。在宅サービスの需要は増えつつあるものの、依然として施設等に入所する重度者が比較的多いことが要因と思われます。

これらの現状を踏まえた課題として、要介護状態にならないよう、元気なうちから介護予防に取り組むための自立支援や、重度化防止のための取組みがますます重要となっています。また、可能な限り住み慣れた地域で安心して日常生活を送れるよう、介護予防から要介護まで、すべての段階で切れ目なく必要な支援が受けられる体制づくりを進める必要があります。

さらに、高齢化に伴い、認知症や複合化した困難事例が増加していくことが見込まれることから、住民同士が主体的に地域での担い手となり、支えあいの輪を広げていく支えあいの地域づくりを進めていくことが求められています。